

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー【2017No.74】(HP 掲載)

分類：BD-ROM(11.2MHz DSD)

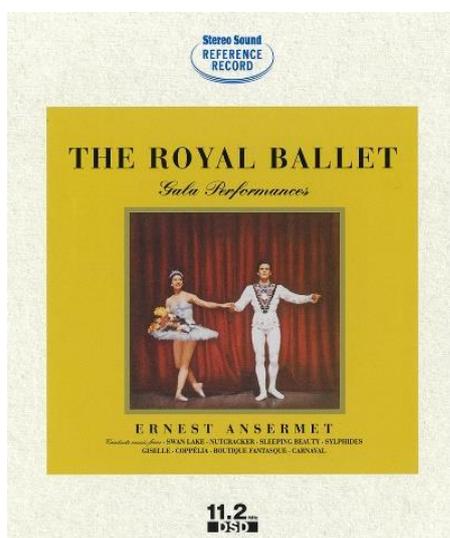
作曲家：チャイコフスキー他

曲名：くるみ割り人形(抜粋) 他

演奏：エルネスト・アンセルメ指揮コヴェントガーデン王立歌劇場管弦楽団

発売：ステレオサウンド社

No. : SSHRB-004



大阪ハイエンドショウ2017に行ってステレオサウンドの展示即売ブースで購入してきました。ステレオサウンドオンラインの解説を以下に引用します。

「空前の再生音楽体験をもたらす、史上最高の音楽ソフト

『永遠の価値を持つ名演奏・名録音』、そのオリジナル・マスターテープからダイレクトに高品位フォーマット DSD11.2MHz にデータ化して収めた BD-ROM のクラシック編。

本商品はロンドンのマスタリングスタジオ「Classic Sound Ltd UK」において、英国保管のオリジナル・アナログ・マスターテープの音声を、ダイレクトに 11.2MHz の DSD 信号に変換したものです。デジタル化の作業を手掛けたのは、ジョナサン・ストークス氏とニール・ハッチンソン氏という、デッカにゆかりの深いベテラン2人。この名エンジニア達が、『限られた制作関係者のみが聴くことが可能だったマスターテープの音を、そのままオーディオファイルの元にお届けする』という商品コンセプトに基づいて、アナログ・マスターテープの音をフラットトランスファーして DSD

信号を制作しています。DSD化にあたっては、当然のことながら、超低域のカットはおろか、音を聴きやすくするためのイコライジングやマスターテープに起因するノイズカットおよびドロップアウト等の補正処理を一切行っておりません。このBD-ROMに収められている11.2MHzのDSFファイルは、まさにオーディオファイルの多くが夢見る「オリジナル・マスターテープの音」そのものと言って過言ではないのです。しかもラインナップするタイトルは最高峰の名録音・名演奏だけ。

現在、入手できる最上流のマスターテープからこれ以上を望めない最高の条件下で制作した11.2MHz・DSDの音を、ぜひとも本格オーディオ・システムで再生いただき、空前の再生音楽体験を味わってください。」

収録曲とその解説を以下に引用します。

ロイヤル・バレエ・ガラ

史上最高峰たるオーケストラ録音

オーケストラの描写は全景からその一員にいたるまで一点の揺るぎもない。弦楽器はステージの前面を豊穡に埋め尽くし、金管は彼方から重厚に風圧を煽る。木管楽器でさえステージの空気を揺るがしてスイートに響き渡る。エンジニア、ケネス・ウィルキンソンの最高の録音として、伝説的な地位を半世紀に渡って保持してきた。ホールのアコースティックとオーケストラの全容を巨大なままに記録した前衛性は、いまだ凌駕される兆しすらない。(弊社発行 嶋護著「クラシック名録音・究極ガイド」より抜粋)

収録曲

チャイコフスキー:くるみ割り人形(抜粋)

Tchaikovsky: The Nutcracker (excerpts)

行進曲/こんぺい糖の精の踊り/アラビアの踊り(コーヒー)/

中国の踊り(お茶)/あし笛の踊り/花のワルツ

ロッシーニ/レスピーギ:風変りな店(抜粋)

Rossini/Respighi: La Boutique Fantasque (excerpts)

タランテラ/アンダンティーノ・モツソ/

チャイコフスキー:白鳥の湖(抜粋)

Tchaikovsky: Swan Lake (excerpts)

情景/小さな白鳥たちの踊り(パ・ド・カトル)/

情景—パ・ド・ドゥ/ワルツ

シューマン:カルナヴァル(謝肉祭)(抜粋)
(グラズノフ、リムスキー=コルサコフ編)

Schumann: Carnaval (excerpts)

(orch. Glazunov, Rimsky-Korsakov)

ピエロ/めぐりあい/告白/パンタロンとコロンビーヌ

チャイコフスキー:眠れる森の美女(抜粋)

Tchaikovsky: The Sleeping Beauty

カンカン	(excerpts)
ドリーブ:コッペリア(抜粋)	序奏—リラの精/バラのアダージョーパ・
Delibes: Coppélia (excerpts)	ダクシオン/ワルツ
序奏とマズルカ/序奏とワルツ/チャール	ショパン:レ・シルフィード(抜粋)(ダグラ
ダーシュ/人形のワルツ	ス編)
アダマン:ジゼル(抜粋)	Chopin: Les Sylphides (excerpts)
Adam: Giselle (excerpts)	(orch.Douglas)
導入とワルツ/パ・ド・ドウとヴァリアシ	前奏曲/マズルカ/ワルツ
オン	

コヴェントガーデン王立歌劇場管弦楽団

Orchestra of the Royal Opera House, Covent Garden

指揮:エルネスト・アンセルメ

Conductor: Ernest Ansermet

録音:1959年1月 ロンドン、キングズウェイ・ホール

Recording: Kingsway Hall, London, 13-16 January 1959

Recording Producer: Michael Williamson

Balance Engineer: Kenneth Wilkinson

BD-ROMから音楽ファイルをfidataHFAS1-S10にコピーし、USB経由でHFAS1-S10
→Sonica DACにより再生します。

上記解説にあるように、元音源の録音の素晴らしさにDSDリマスタリングの技術によ
って11.2MHzのフォーマットの可能性が遺憾なく発揮されています。

まず、オーケストレーションの立体的なステージ感と各パートの定位感が素晴らしいこ
とが分ります。個々の楽器の質感や楽器の音のホールへの伝播さえも分かるような感じ
で、HFAS1-S10のSSDの静寂感がそれを助けています。

結果として、これまでのデジタル音源に対する固定観念のレベルを超えるもので、マ
スターテープのクオリティを想起させるレベルに到達しているように感じています。

何よりもこういった技術の助けで、アンセルメ指揮の色彩感あふれるオーケストレーシ
ョンの爽快感が楽しめることはありがたいことです。

以上